（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスWill be

公表日　令和８年　３月　１５日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		もう少し広ければと思うが 時間で分けたり、パーテーションで区切っている	引き続き時間やパーテーションで環境設定を行う
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		もう少し沢山いると良いと思うが、療育リーダーを交代制にしてそれぞれの良さを提供している	言語聴覚士などの募集を継続
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚教材を用いて支援している	写真付きの名札やボードで工夫を継続
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎朝と夕方の清掃を徹底している	運動遊びの際には、障子や窓、電気への配慮が必要
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	6		場合によっては部屋を分けて活動できるようにしている	相談室スペースの活用を検討
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝、昼、夕方ミーティングを行い反省シートを活用している	児童に関する情報等を共有する為 引き続き三回のミーティングを継続
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		開所初の評価表なので真剣に考えていく	評価をもとに反省や生かしていく点について話し合いを行う
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングの機会に意見を出し合っている 毎週末には次週の予定確認などその週の反省を生かせるよう話し合いの場を設けている	継続して行う
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現在のところ外部への委託をして第三者評価は行っておりませんが機会を見て行いたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		全職員が同じ研修を受講できるように定期開催のものは順番に受講している	全職員が共通認識を持って活動に取り組めるように努める
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	6		最適なプログラムになるよう話し合い決定している	個性豊かな職員の技を提供できるように活動に生かしていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメントは児童全員分を全職員で行い適切な活動や過ごし方を考えている	偏ることのないように５領域に沿いながら本人、保護者の意見を取り入れていく
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		上記同様	上記同様
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		回覧を徹底している、毎日のミーティングで支援について確認し合っている	日々の様子を観察しながら変化に合わせて支援を考えていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		５領域アセスメントシートに加えて、事業所独自の日常生活面などについても書かれたアセスメントシートを活用している	継続しながら活用していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ご本人のニーズや保護者ニーズを考慮しつつ最適な支援内容を記載している	ご本人からの聞き取りの場面を設けて計画書作成に生かしているので継続していく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月日にちを決めて活動案を持ち込んで会議の場を設けている	計画書や現在のご本人の状態に合わせて活動を工夫していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		上記同様	上記同様
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		児童に合わせて個別、集団を組み合わせて活動をしている	集団活動後の自立課題に取り組む時間など個別時間も継続していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のミーティングを行い、活動について話し合いを行っている	活動開始までの来所してからの過ごし方についての留意点も話し合いをしてるので継続していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6		毎日の反省会ミーティングを行い職員一人ひとりの意見を出し合っている	その場その場で指摘し合うよう心掛けていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		HUGシステムを用いてケア記録を記載	記載漏れや特定の職員（その日の活動リーダー）に限定せずに記録していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		日々の記録がしっかりなされていてこそのモニタリング記録ができると考えている	緊急であれば適宜行う
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が基本的に参加し必要に応じて現場職員と同行	全職員が参加できるよう理解を深めていく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		連携体制を整えているのでいつでも情報共有ができるようにしている	継続的に行う
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報共有をあらゆる手段から行い関係機関との相互理解に取り組んでいる	まだまだ児童発達支援について周知されていないことが悲しい
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		これからも継続していく	これからも継続していく
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	3	3		十分な機会を設けていく
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	戸外活動において他児との交流も見られる	地域の大人とのコミュニケーションの機会も大切にしていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や毎日の連絡帳記録にて共有しているその他SNSでの発信も行っている	継続的に行う
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6	開所初の評価表なので今後の開催を考えていく	令和8年3月に開催予定
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時や見学時に施設の紹介とともに特徴を説明している	随時理解頂けるよう適宜発信していく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	6		保護者意向のみならず、こども自身との話の場を設けて計画書に生かしている	今後も継続的に行う
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		保護者だけに終わらないように簡単にわかりやすく要約して説明を行う工夫をしている	こどもにはわかりやすい文章で説明する
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的ではないが 前期は数多くの相談が寄せられた、適宜相談援助を行った	相談しやすい場を増やしていく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	開所初の評価表なので今後の開催を考えていく	令和8年3月に開催予定
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	前期は数多くの相談が寄せられた、適宜相談援助を行った	職員全員が同じ対応が取れるように日々の反省会や研修会をしていく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		HUGシステムを用いたりSNSにて発信	今後も継続的に行う
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		鍵のかかるロッカーの使用や個人名の隠字表記など工夫を行っている	今後も継続的に行う
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		こどもの支援には必要に応じて視覚的支援を行っている	とらえ方に差異が出ないよう何度も確認を行うようにしていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		特に開所すぐの1か月は開放デーや説明会の実施を行ったり付近の老人ホームの方との連携も行った	今後も継続的に行う
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを用意し研修訓練を行っている研修終了時にはシステム周知を行っている	今後も継続的に行う
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		訓練をしてみて見直し検討までを行っている	随時必要な見直しを行う
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		見学や契約時に記入していただく個人情報に加えて面談で確認している	見落として事故にならないように周知徹底していく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		情報に沿って対応する 現在のところ対象はおらず	情報に沿って対応する 現在のところ対象はおらず
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		送迎車や施設内の点検を適宜行い 交通マナーなど活動に取り入れてきた	お家の方への啓発も引き続き発信する
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3	3	十分ではなかったと感じている為、 周知を図っていく	十分ではなかったと感じている為、 周知を図っていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		少しの事案でも大きくならないように周知をしている	今後も継続的に行う
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		県や市主催の研修会などに出席し全職員で研修会を行っている	今後も継続的に行う
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		必要と思料される利用者様には特に説明を大切にしている	今後も継続的に行う